ATSUSHI SAKAI
CLASSICAL CELLO RECITAL

中電グループ プレゼンツ
ザ・コンサートホール
リサイタルシリーズ
Vol. 3

PROFILE

酒井　淳（クラシカル・チェロ）

1975年名古屋生まれ。チェロを中島顕氏、R. レナード氏、H. シャピロ氏、P. ミュレール氏に師事。パリ国立高等音楽院にて一等賞、J. ブリザール賞を受賞。ルンデあしながクラブの支援をうけ、日本各地にてリサイタルを行う。97年にはカザルスホール主催「パブロ・カザルスに捧げるチェロ連続演奏会」出演、現代音楽中心の無伴奏プロは大きな反響を呼び、同プロ大阪での演奏に対して大阪文化祭賞本賞を受賞。

早くから、ヴィオラ・ダ・ガンバとバロックチェロに魅かれ、クリストフ・コアン氏に師事。フランス古楽アンサンブル、レ・タラン・リリックやル・コンセール・ダストレーの首席チェロ奏者としてヨーロッパの主要ホール、コンセルトヘボウ、ウィーンコンツェルトハウス、シャンゼリゼ劇場、バービカン・センターなどで数々の演奏会に出演、又はCD録音する。

室内楽やリサイタルにも力を注ぎ、R. ルセ氏、C. コアン氏、A. プラネス氏、バルトーク弦楽四重奏団ほかと共演。シャトレ劇場、クイーン・エリザベス・ホール、ルーブル美術館、フィレンツェ・ペルゴラ劇場、ローザンヌ・オペラ、ポツダム宮殿ほかの演奏会に出演。

カンビニ四重奏団のチェロ奏者。また、ヴィオール・コンソート「シット・ファースト」の結成メンバー。パリ在住。

※クラシカル・チェロ：いわゆるバロック・チェロとは違い、古典派の曲を演奏するためにモダン・チェロの仕様を変えたもの。エンドピンを外し、弦も弓も取り替えて演奏する。

酒井 佳奈子（フォルテ・ピアノ）

桐朋女子高等学校、桐朋学園大学ピアノ科卒業。ピアノを平山聡子氏、大堀敦子氏、片山敬子氏に師事。室内楽を練木繁夫氏、藤井一興氏に師事。

卒業後、渡仏。ナンシー音楽院にてピアノをモニク・ドゥビュ氏に師事、故・ピエール・サンカン演奏技法を学ぶ。伴奏法をボン・ルジェ氏に師事。ディプロム・コンサーティストを取得。マントノン音楽院ピアノ教授、プラド音楽講習会の公式伴奏者、また数々のコンクール伴奏者として活動する一方、フルート奏者、クレール・マルシャル氏とデュオを結成、フランス国内で多数の演奏会を行う。タンゴ、ジプシー音楽をレパートリーとする、デュパン・トリオのピアニストとしてフランスやイタリアの音楽祭に招かれ好評を博す。

オリジナル楽器に興味を持ち、フォルテピアノ製作家ルネ・ジョフリウ氏のもとで楽器製作を学ぶ。この時の経験が大きく視野を変える。パリ音楽院にてフォルテピアノとクラヴィコードをパトリック・コーエン氏に師事。チェンバロをキジアナ音楽講習会にてクリストフ・ルセ氏に師事。パリ在住。

酒井　淳からのメッセージ
「モーツァルティアーデ」について

モーツァルトが後世に与えた影響は非常に大きい。残念ながらチェロとピアノのために書いた彼の曲は現存しないが、次代の作曲家たちがモーツァルトの主題をもとに数々の変奏曲を試みている。当時、凄まじい変化の途上にあったチェロとフォルテピアノという楽器、また当時盛んであった主題と変奏の書法を用いモーツァルトを讃えたこの作曲家たちのように、私たちはモーツァルトにオマージュを捧げたい。

なお、モーツァルトの息子、F.X. モーツァルトは19世紀のチェロ・ソナタの歴史には無視できない「グランド・ソナタ」を書いている。

今回このソナタを演奏することにより、このあまり知られていないW.A. モーツァルトの四男の作品群の再評価につながればと願う。二人のモーツァルトたちにちなんで、「モーツァルティアーデ」とこの演奏会を題する。